

書評

感染対策
60のQ&A

感染対策

60の
Q&A

坂本史衣

医療関連感染対策の
心強い相棒！

「担当者が直面する悩み」を解決する具体的な情報

医学書院

シリーズ第1弾「40の鉄則」に続き、効果的な
感染対策に欠かせない科学的視点や思考過程を
Q&A形式で解説

- 著 坂本史衣
- 定価 3300 円(本体 3000 円+税 10%)
- 判型 A5
- 頁数 328
- 発行 医学書院

評者

日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程
課程長

渋谷智恵

読者の「腑に落ちる」
エビデンスと実践が満載

著者は本書のメインターゲットを「医療関連感染の予防と制御（IPC）にかかわる初学者」に想定しているようだが、中堅からベテランが日々活動する中でも大いに助けとなる内容になっている。

本書はIPCの基本となる8つの章、すなわち、(1) 標準予防策、(2) 感染経路別予防策、(3) 医療器具関連感染予防、(4) 職業感染予防、(5) 洗浄・消毒・滅菌、(6) 医療環境管理、(7) サーベイランス、(8) 新興感染症のパンデミックに分類され、各章は質問と回答で構成されている。60の質問（Question）はどれも院内でよく聞かれるシンプルなものだが、これに対する著者の回答（Answer）がとにかく勉強になる。回答は国内外の多数の文献を参考に、さらに理論編と実践編に分かれている。

理論編は質問に関する基礎知識であり、初学者であればここでエビデンスに基づいた体系的知識を学ぶことができる。実践編では臨床におけるその知識の活用の仕方を紹介しているため、IPC領域のベテランでも具体的な活動に役立てることができる。

例えば、第1章「標準予防策」にはQ02「手指衛生はいつ行うのですか？」という質問がある。この回答の理論編では、WHO版手指衛生の5つのタイミングとカナダ版手指衛生の4つのタイミングを説明している（本文p7, 8）。どちらを使ってもよいのだが、比べてみると、カナダ版のほうが患者と患者環境を一つに捉えた考え方をされていてシンプル

で分かりやすい。「もしかするとスタッフが手指衛生のタイミングを理解するにはカナダ版のほうが良いかもしれない……」と考えたりする。

回答の実践編では、日常的に行う作業中の手指衛生の適応場面とタイミングをつなげるための「つなげる練習」が紹介されている。院内研修でさまざまな想定場面について、「手指衛生の適応場面とタイミングの『つなげる練習』をしたら盛り上がるだろう」と想像が膨らむ。こうした理論編と実践編という構成が、単に知識を得るだけにとどまらず、実際の状況に対応するための活動をイメージさせてくれる。

このように示唆に富む質問と回答が60もあるのだから、読者諸氏が所属する施設でもIPCの問題解決のヒントになることは間違いない。読者は最初から読むのもよし、自分が気になる問題を探して読むのもよし。本書を通じて、問題解決の糸口を得ることができるだろう。

著者は本書の中で、職員の「腑に落ちる」ことの重要性を伝えている。大人は現実的で自身の仕事や生活に役立ち、重要だと感じる知識・技術は積極的に習得しようとする一方で、必要性や重要性が見出せないことの学習や実践には抵抗を感じる特徴がある。医療関連感染対策のエビデンスとそれに基づく実践が、職員の「腑に落ちる」形で記載されている本書は、課題を抱える現場を改善に導くさまざまな手掛かりが詰まった一冊である。